

令和6年1月29日

保護者様

北九州市立松ヶ江北小学校
校長 上満 佳子

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	・「知識及び技能」に関する内容では、「情報の扱い方に関する事項」に課題がみられる。 ・「思考力・判断力・表現力」に関する内容では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の内容が全国と同じ程度の正答率だった。
算数	・学習指導要領の領域「図形」は、全国平均値を上回っている。 ・学習指導要領の領域「数と計算」「データの活用」は、全国平均値を下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・ほとんどの児童が「国語の勉強は大切だと思う。」「国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う。」と回答しているが、「国語の勉強が好き。」と回答している児童は6割となっている。国語の学習に対して苦手意識をもっている児童がおり、特に、「文章を書くこと」が課題である。 ・「学習の中でタブレット等のICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。」と全員が回答している。授業中での使用頻度については、全国比と同程度であり、ドリルアプリや調べ学習等で活用することができている。 ・「朝食を毎日食べている。」「毎日、同じ時間に起きたり、寝たりしている。」と回答している児童が9割以上おり、基本的な生活習慣が身についている。 ・家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国より高かった。 ・「地域の行事に参加している」と回答している児童が6割だったが、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答している児童は9割いた。地域行事に参加する機会は少なくなっているが、地域に関心をもっている児童が多い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○学力の定着

- ・学習後に振り返りや感想を書く時間を設定したり、一言日記を書いたりする取組をこれからも継続して行っていき、書くことに対する苦手意識をなくしていく。
- ・漢字や計算などの基礎的な力を高めるために、継続してタブレットの有効活用を行っていく。
- ・「松北家庭学習3点セット（漢字・計算・音読）」の実施を毎日行っていく。また、家庭学習の意義や取組状況等について、通信・懇談会等で家庭に情報を発信する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・基本的な食生活や生活習慣の定着、生活時間の見直し等の大切さや必要性について、継続して情報を発信するとともに各家庭に協力を依頼する。
- ・学習の中で、地域のゲストティーチャーを招いたり、校区にある施設を訪れたりすることで、児童と地域を繋ぐようにする。また、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域に根ざした学習を進めることで、自分の住んでいる地域に対しての関心・愛着を高めていく。